

令和３年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	ピアノレッスンⅣ	
コース名	幼児保育コース			担当者	大澤	
学 年	3年			教科番号	3701	単位数 3.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
			○			
授業概要	ピアノ個人レッスン					
到達目標	ピアノの基礎演奏技術の習得を目標とする。保育現場ですぐに活用できる、日常保育曲や音楽リズム曲の弾き歌いが出来るようにする。幼児曲・和音感・リズム感等が更に上達するよう、進度にあった伴奏付けを学ぶ。就職試験対策曲を習得する。					
教材名	音楽・ピアノ教本（近畿大学教本） こどものうた100（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） 授業内でプリント配布					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園教諭とリトミック指導員の経験を有する教員がその経験を活かし、ピアノの指導を行う					
履修に あたっての 留意点	毎日課題曲1曲×5分の個人練習を行いましょう。授業開始20分以降の遅刻は欠席扱いとなります。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	35%	5%	30%	30%	0%	100%

回数	講義内容
1	①就職試験対策曲練習
2	①就職試験対策曲練習
3	①就職試験対策曲練習
4	①おはようのうた ②あさのうた ③おべんたうのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいあいさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがき
5	①おはようのうた ②あさのうた ③おべんたうのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいあいさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがき
6	①おはようのうた ②あさのうた ③おべんたうのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいあいさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがき
7	①おはようのうた ②あさのうた ③おべんたうのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいあいさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがき
8	①おはようのうた ②あさのうた ③おべんたうのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいあいさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがき
9	
10	
11	
12	
13	①実習園課題曲
14	①実習園課題曲
15	①実習園課題曲
16	①実習園課題曲
17	①幸せなら手をたたこう ②就職試験対策
18	①思い出のアルバム ②就職試験対策
19	①あわてんぼうのサンタクロース ②就職試験対策
20	①かもつ列車 ②就職試験対策
21	試験曲公示
22	試験対策練習
23	試験対策練習
24	試験対策練習
25	試験対策練習
26	試験対策練習
27	試験対策練習
28	試験対策練習
29	試験対策練習
30	試験対策練習
31	試験対策練習
32	試験対策練習

令和２年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	相談援助	
コース名	幼児保育コース			担当者	森下	
学 年	3年			教科番号	3702	単位数 1.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○	○				
授業概要	ソーシャルワークの知識、技術、方法について理解する。相談援助職としての保育者としての視点、態度について学ぶ。					
到達目標	①相談援助の理論、方法、技術について説明できる。②相談援助の具体的展開過程について説明できる。③支援計画の立案の方法について説明できる。④面接技術を身につけ、活用できる。⑤事例検討を通して、保護者への相談場面に対応するための心構えを身につける。⑥自己の性格特性を知り、専門職としての価値に基づき判断することができる。					
教材名	配布プリントを使用					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経験の 関連性	保健所にて発達相談員経験と大学での実習指導経験を有する教員がその経験を活かし社会福祉援助活動の基礎について講義、演習を行う					
履修にあたっての 留意点	事例検討や演習では、積極的に参加、発言すること。また参加するだけでなく、振り返りを重視する。学期末試験を行うが、評価にあたっては授業態度、参加状況を重視する。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	30%	10%	40%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	相談援助の意義 保育士による相談援助の意義、子どもの最善の利益
2	相談援助の機能 相談援助に関わる専門職、ソーシャルワークの4つの機能、ソーシャルワーカーが所属する組織
3	援助者としての自己理解 エゴグラム、個人の価値と専門職の価値
4	保育とソーシャルワーク 相談援助とソーシャルワーク、保育所に求められるソーシャルワーク機能、保育所の専門性と強みを生かすソーシャルワーク
5	相談援助の過程 相談援助の展開過程の理解、面接技法
6	相談援助の技術 対人援助職としての基本的態度、バ이스テックの7原則
7	相談援助の計画、記録 情報収集、アセスメントと支援計画の立案について、相談援助の様々な記録方法
8	相談援助の多様な専門職との連携 協働と連携、連携の意義、連携する機関
9	社会資源の活用、調整、開発 フォーマル、インフォーマルな社会資源、分野別の社会資源活用・調整・開発
10	事例検討 障害が疑われる子どもの保護者への対応について
11	事例検討 虐待が疑われる子どもの保護者への対応について
12	学期末試験

令和３年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	幼児と人間関係		
コース名	幼児保育コース			担当者	近藤		
学 年	3年			教科番号	3703	単位数	1.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修	
	○						
授業概要	子ども個人の成長と、集団の中での成長について目を向け、それらの過程で、保育者として適切なかわり合いを検討する。 また子どもを取り巻く社会背景（家庭・地域を中心に）を捉え、それらの環境が子どもの資質・能力にどのような影響を及ぼすかについて考える。						
到達目標	①幼児を取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを理解する。 ②子どもの人と関わる力の重要性を理解する。 ③子どもの集団のなかでの育ちについて理解し、支え合う関係づくりについて理解する。 ④実践を通して、地域との関わりについて理解する。						
教材名	「幼児と人間関係－幼稚園教諭・保育士をめざす－」金 俊華 編著（同文書院）						
資格の 取得目標							
授業内容と 教員の実務経験の関連性	児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし、5領域「人間関係」に焦点をあてて授業を行う。						
履修に あたっての 留意点	授業回数が少ないので、欠席をしないよう体調に留意してください。						
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計	
割 合	0%	30%	30%	40%	0%	100%	

回数	講義内容
1	オリエンテーション、保育の5領域と「人間関係」について
2	保育者と子どもの信頼関係の構築。
3	保育者と保護者の関わり。
4	現代の子どもを取り巻く社会環境と人間関係
5	協同性の育ち 一遊びや生活を通じて一
6	道徳性・規範意識の芽生え
7	地域社会との関わりー地域の子育て支援センターボランティアについてー
8	まとめ 理解度確認レポート

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	子どもの健康と安全		
コース名	幼児保育コース			担当者	大井		
学 年	3年			教科番号	3704	単位数	1.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修	
	○						
授業概要	小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための幼児が遭遇する事故、その事故に予防対策について学ぶ。						
到達目標	小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための事故予防に寄与するにあたり、幼児が遭遇する事故についての知識を得て、その予防対策について理解する。						
教材名	竹内義博・大矢紀昭／編「よくわかる子どもの保健」（ミネルヴァ書房）						
資格の 取得目標							
授業内容と 教員の実務経験の 関連性	医療関連の教育経験を有する教員がその経験を活かし子どもの保健について講義を行う						
履修にあたっての 留意点	本講義と並行して実施される実習のなかで本講義によって付与された知識の実践例を確認し、将来の幼児保育および教育の現場で自ら考え行動する姿勢を心がける。						
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計	
割 合	60%	10%	10%	20%	0%	100%	

回数	講義内容
1	子どもの事故の特徴―屋内
2	子どもの事故の特徴―屋内
3	子どもの事故の特徴―屋外
4	子どもの事故の特徴―屋外
5	事故による心身の被害と救急処置
6	食中毒
7	保育現場における衛生管理
8	子どもの事故防止対策と安全管理
9	不慮の事故
10	事故防止に向けた職員間の連携と組織的取り組み
11	災害への備え
12	筆記試験

令和３年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	乳児保育Ⅰ		
コース名	幼児保育コース			担当者	久保田		
学 年	3年			教科番号	3705	単位数	2.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修	
	○						
授業概要	児童福祉における乳児保育について、その概要と意義を把握し理解する。						
到達目標	・ 乳児の特質と発達について理解する。 ・ 発達と個性に応じた保育の実践を理解する。 ・ アクティブラーニングを理解する。						
教材名	はじめて学ぶ乳児保育 第二版						
資格の 取得目標							
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし乳幼児の保育方法や保護者支援について授業を行う						
履修に あたっての 留意点	・ 近畿大学科目のためレポート、科目試験を念頭に入れて受講する。 ・ 欠席しない。						
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計	
割 合	20%	10%	40%	30%	0%	100%	

回数	講義内容
1	今後の講義について
2	乳児保育の基本的な考え方。
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち。
4	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり。
5	子どもの体験と学びの芽生え。
6	多様な保育について。
7	1日の流れで考える生活・遊びと環境の構成。
8	0歳児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際。
9	1歳児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際。
10	1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際。
11	子ども同士の関わりとその援助の実際。
12	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮。
13	集団での生活における配慮。
14	環境の変化や移行に対する配慮。
15	乳児保育における計画と実際。
16	テスト

令和３年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	乳児保育Ⅱ		
コース名	幼児保育コース			担当者	久保田		
学 年	3年			教科番号	3706	単位数	1.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修	
	○	△					
授業概要	児童福祉における乳児保育について、その概要と意義を把握し理解する。また乳児保育Ⅰや今までの実習の振り返りを通して、理解を深める。						
到達目標	・ 乳児の特質と発達について理解する。 ・ 発達と個性に応じた保育の実践を理解する。 ・ アクティブラーニングを理解する。						
教材名	はじめて学ぶ乳児保育 第二版						
資格の 取得目標							
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし乳幼児の保育方法や保護者支援について授業を行う						
履修に あたっての 留意点	・ 欠席をしない。 ・ まじめに取り組むこと						
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計	
割 合	0%	20%	30%	50%	0%	100%	

回数	講義内容
1	今後の講義について
2	乳児保育Ⅰの振り返り
3	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり。
4	1日の流れで考える生活・遊びと環境の構成。
5	子ども同士の関わりとその援助の実際。
6	集団での生活における配慮。
7	乳児保育における計画と実際。
8	まとめ

令和３年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	子育て支援	
コース名	幼児保育コース			担当者	森下	
学 年	3年			教科番号	3707	単位数 1.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	ソーシャルワークの知識、技術、方法について理解する。相談援助職としての保育者としての視点、態度について学ぶ。					
到達目標	①相談援助の理論、方法、技術について説明できる。②相談援助の具体的展開過程について説明できる。③支援計画の立案の方法について説明できる。④面接技術を身につけ、活用できる。⑤事例検討を通して、保護者への相談場面に対応するための心構えを身につける。⑥自己の性格特性を知り、専門職としての価値に基づき判断することができる。					
教材名	配布プリントを使用					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経験の 関連性	保健所にて発達相談員経験と大学での実習指導経験を有する教員がその経験を活かし社会福祉援助活動の基礎について講義、演習を行う					
履修にあたっての 留意点	事例検討や演習では、積極的に参加、発言すること。また参加するだけでなく、振り返りを重視する。学期末試験を行うが、評価にあたっては授業態度、参加状況を重視する。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	30%	10%	40%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	相談援助の意義 保育士による相談援助の意義、子どもの最善の利益
2	相談援助の機能 相談援助に関わる専門職、ソーシャルワークの4つの機能、ソーシャルワーカーが所属する組織
3	援助者としての自己理解 エゴグラム、個人の価値と専門職の価値
4	保育とソーシャルワーク 相談援助とソーシャルワーク、保育所に求められるソーシャルワーク機能、保育所の専門性と強みを生かすソーシャルワーク
5	相談援助の過程 相談援助の展開過程の理解、面接技法
6	相談援助の技術 対人援助職としての基本的態度、バ이스テックの7原則
7	相談援助の計画、記録 情報収集、アセスメントと支援計画の立案について、相談援助の様々な記録方法
8	相談援助の多様な専門職との連携 協働と連携、連携の意義、連携する機関
9	社会資源の活用、調整、開発 フォーマル、インフォーマルな社会資源、分野別の社会資源活用・調整・開発
10	事例検討 障害が疑われる子どもの保護者への対応について
11	事例検討 虐待が疑われる子どもの保護者への対応について
12	学期末試験

令和３年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育実習事前事後指導Ⅱ		
コース名	幼児保育コース			担当者	久保田		
学 年	3年			教科番号	3707	単位数	0.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修	
	△	○					
授業概要	保育実習（保育所）を円滑に行うために必要な事柄を学習する。						
到達目標	・ 保育実習（保育所）責任実習の準備を行う。 ・ 模擬演習を円滑に行う。						
教材名	保育実習事前事後指導テキスト（近畿大学九州短期大学通信教育部）						
資格の 取得目標							
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし実習指導を行う						
履修に あたっての 留意点	・ 本番同様の模擬演習のつもりで臨む。 ・ 欠席をしない。						
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計	
割 合	0%	0%	50%	50%	0%	100%	

回数	講義内容
1	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価
2	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価
3	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価
4	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育の心理学	
コース名	幼児保育コース			担当者	長坂	
学 年	3年			教科番号	3710	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	保育園・幼稚園・その他関連施設において乳幼児や児童らと関わる専門家として、基礎的理論を多角的に理解する。また、知識を単に習得するに留まらず、実際のケースを紹介しながら考察を深め、現場で活かせる視点を十分に養う。					
到達目標	1. 保育・教育に必要な発達に関わる諸理論について、生物学的・心理学的・社会的などの多角的視点による発達過程及び発達課題を習得する。 2. 保育・教育・福祉現場で必要な各疾患の特徴や支援方法を学び、多角的な支援を行えるよう基盤を作る。 3. 机上だけの学習に留まらぬよう、各理論や現象が実際の現場へどのように応用されるのかについて、実習や実際のケースを用いて考察を深める。 4. 現場において子どもや保護者などを見つめさせる力を十分に養えるよう、実際のケースを示しながら、学生が様々なことを感じる力を身に付ける。					
教材名	沼山博・三浦主博（2019）編著 子どもとかかわる人のための心理学 保育の心理学, 子ども家庭支援の心理学への扉 萌文書林 担当教員の作成するワークシート式プリント					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経験の 関連性	母子生活支援施設、精神保健福祉センターでの相談員経験を有する教員が、その経験を活かし乳幼児の発達を中心に、現場で必要な知識習得に向けた講義を行う。					
履修にあたっての 留意点	・ 授業中は積極的発言をし、クラス全体で授業を展開してほしい。 ・ 担当教員が独自に作成したプリントを配布するので、オリジナルのノートを作成する努力をしてほしい。 ・ ファイル提出及び期末試験を実施する。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	40%	20%	20%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	オリエンテーション:授業概要、方針、学習目標、評価方法の説明 導入:発達心理学とは何か
2	発達とは何か:発達の考え方、とらえ方
3	発達とは何か:現場における「発達」のとらえ方 各発達理論:フロムフェンブレンナー、ヴィゴツキーなどの理論
4	各発達理論:エリクソン、ハヴィガーストなどの理論
5	各発達理論:フロイト、ウィニコット、マラーなどの理論
6	各発達理論の復習:それぞれの相違点 胎児期:胎児期の発達
7	胎児期:胎児期の発達 乳幼児期:乳幼児期の発達
8	乳幼児期:乳幼児期の発達 幼児期:幼児期の発達
9	幼児期:幼児期の発達 児童期:児童期の発達
10	児童期:児童期の発達 各時期の発達に関する復習
11	知的発達:ピアジェの発達理論、表象、象徴、記号
12	言語発達:知的発達との関わり、言語の獲得、言語の発達過程
13	言語発達:言語の発達過程、文法的理論 社会性の発達:対人関係の発達
14	社会性の発達:対人関係の発達 道德性の発達:フロイト、ピアジェ、コールバーグの理論
15	道德性の発達:コールバーグ、ギリガンの理論
16	遊びの発達:子どもの遊びの発達と見立て
17	愛着の発達:愛着理論、愛着の発達過程
18	情動の発達:知・情・意の発達、情動の種類、情動の発達段階、アンガーマネジメント
19	子どもの精神疾患:場面緘黙、チック、行為障害など
20	子どもの精神疾患:愛着障害、性別違和など
21	気になる子どもの実態と支援:発達障害、未診断の子どもの特徴と支援
22	さまざまな環境の子ども:虐待、DV世帯、若年母子家庭、精神疾患の母子などの実態とその支援
23	試験対策:これまでの復習と試験に関わる項目別まとめ
24	学生の希望する内容講義:事前に学生へアンケートを実施し、希望のあった心理学に関する講義(これまでは、恋愛心理学、虐待世帯への支援、精神疾患など)

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育・教職実践演習		
コース名	幼児保育コース			担当者	久保田		
学 年	3年			教科番号	3710	単位数	8.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修	
	△	○					
授業概要	保育科三年間の学習と実習を通して身に付けた保育士・幼稚園教諭に求められる 資質・能力を確認し使命感と子どもに対する愛情に根付いた実践的指導力とは何か確認する。						
到達目標	・ 保育士・幼稚園教諭としての使命感、保育・教育的愛情について省察する。 ・ 社会性や対人関係能力を身に付ける。 ・ 子どもの発達状況や心身の状況を理解をし、適切なクラス運営を行う能力を身に付ける。 ・ 保育内容当等の指導力について基本的事項を身に付ける。						
教材名	保育・教職実践演習ガイドブック（近畿大学九州短期大学） 保育・教職実践演習						
資格の 取得目標							
授業内容と 教員の実務経験の関連性	幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし責任自習の模擬授業や卒業研究の指導を行う						
履修にあたっての 留意点	・ 欠席しないこと。 ・ 模擬演習に向けて熱意を示すこと。 ・ 楽しく演習に取り組むこと。						
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計	
割 合	0%	25%	25%	50%	0%	100%	

回数	講義内容
1	ガイダンス
2	ガイダンス
3	幼稚園責任実習に向けての模擬演習と評価・反省会
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	幼稚園責任実習に向けての模擬演習と評価・反省会2
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	幼稚園実習に向けて確認をする。
16	希望者対象の模擬演習と評価・反省会
17	対象者に向けての反省会
18	〃
19	2回目の責任実習に向けての模擬演習と反省、改善点の討議
20	〃
21	〃
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	総括
30	〃
31	後期の各自の演習の課題を決める
32	〃

回数	講義内容
33	学生が自己課題を自覚し演習に取り組む
34	〃
35	〃
36	〃
37	〃
38	〃
39	〃
40	〃
41	〃
42	〃
43	〃
44	〃
45	〃
46	〃
47	〃
48	〃
49	〃
50	演習発表の最終確認および準備
51	〃
52	〃
53	演習発表の最終確認および準備
54	演習の発表(プレゼン)
55	〃
56	最終評価と反省

令和3年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	キャリアデザインⅢ		
コース名	幼児保育コース			担当者	戸川		
学 年	3年			教科番号	3718	単位数	8.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修	
	○	△					
授業概要	積極的な就職活動の意識付けを目標とする 履歴書の書き方、実習園への対応等の知識を習得する						
到達目標	・ 保育園および幼稚園、福祉施設等の情報収集ができる ・ 個人で情報収集ができる ・ 常に試験準備をしておくことができる ・ 福祉系の就職セミナー及び講演の参加 ・ 社会人常識マナーの習得 ・ 保育、教育実習の事前・事後指導を受講し進路を決定できる ・ 責任実習指導案を作成できる ・ 実習日誌の研究を行える ・ 実習報告（実習報告会の実施）を実施し後輩に分かりやすく指導することができる						
教材名	保育の基本用語 幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド						
資格の 取得目標							
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	OA商社、コンピュータ教育関連機関の経験を有する教員がその経験を活かし就職指導等を行う						
履修に あたっての 留意点							
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計	
割 合	0%	20%	40%	40%	0%	100%	

回数	講義内容
1	・履歴書、郵送用封筒の作成(保育／教育実習用)
2	・幼稚園実習での指導案の作成
3	〃
4	〃
5	・幼稚園実習、施設実習のオリエンテーション準備、オリエンテーションの実施・指導案作成
6	〃
7	〃
8	〃
9	教育実習フィードバック・お礼状の作成と発送
10	〃
11	〃
12	施設実習の準備
13	〃
14	施設実習フィードバック・お礼状の作成と発送、学校祭準備
15	〃
16	・夏期中のボランティア活動のスケジュール表作成
17	保育実習(施設)の指導案作成、施設実習準備
18	〃
19	〃
20	〃
21	〃
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	〃
30	〃
31	〃
32	〃

回数	講義内容
33	保育実習、施設実習準備
34	〃
35	〃
36	〃
37	〃
38	〃
39	〃
40	〃
41	〃
42	〃
43	〃
44	実習の振り返り 等
45	〃
46	〃
47	〃
48	〃
49	〃
50	〃
51	〃
52	〃
53	〃
54	内定承諾書・お礼状の書き方・内定を辞退するときの対応・内定がとれなかったときの対応・内定後の過ごし方
55	〃
56	〃
57	〃
58	・入社日の諸注意(早期実習の確認等)・身だしなみの確認・社会人としての心構え
59	〃
60	〃
61	〃
62	3年間の総まとめ
63	〃
64	〃